

資源評価調査委託事業 Ⅱ 漁場一斉調査

漁業資源課 伊與田 慎右

1 目的

土佐湾周辺海域に出現する流れ藻の状況、流れ藻に付着するモジャコの出現状況、サイズ組成等を把握し、ブリ資源の動向把握及びモジャコ漁業の効率的な操業に資する。

曳網を用いた採集調査は2009(平成21)年から毎年継続しており、本報告では2021(令和3)年の実績を報告する。

2 方法

(1) 調査期間

前年までと同様に毎月 of 定線調査の際に実施した(定線の位置は図1参照)。ただし、4月は室戸東定線及び足摺・室戸沖合定線の調査を行わなかった。また5月は調査船の長期ドックのため、定線調査を行わなかった。

なお、3月の調査は前年度(2020年度)事業に含まれるが、併せて報告する。

3月調査・・・2021年3月1～11日

4月調査・・・2021年4月1～6日、22日

(2) 調査船

漁業指導調査船「土佐海洋丸」80トン

(3) 採集漁具

曳網(目合:6本30節)

(4) 調査手順

- ・目視により流れ藻を探索し、視認点の緯度経度、水温、流れ藻数を記録。
- ・1日当たり5個程度を目安に流れ藻を採集し、流れ藻重量、モジャコ付着尾数を記録。
- ・帰港後、モジャコの尾叉長を測定、流れ藻の種を同定。

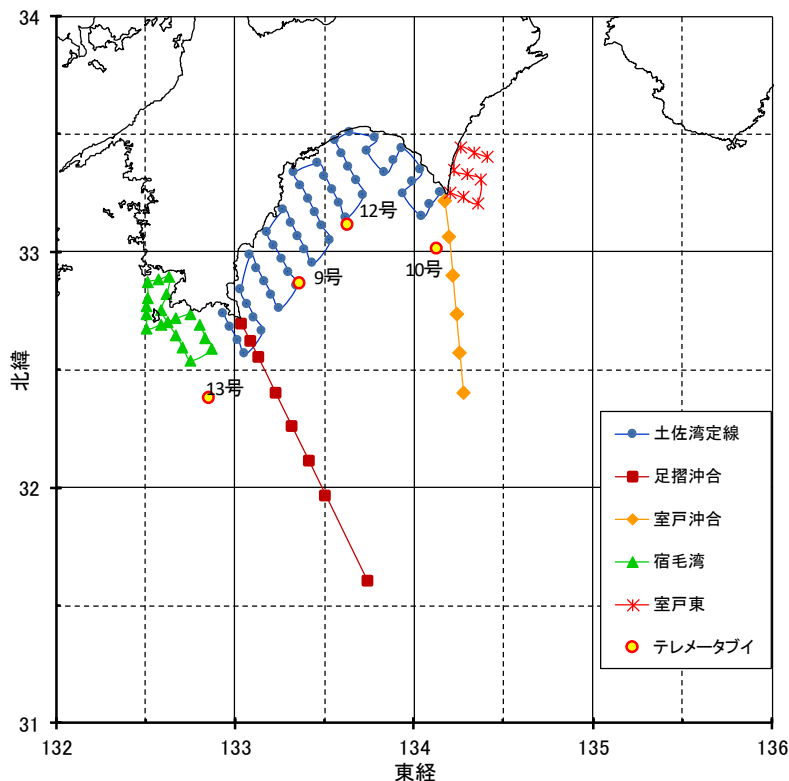


図1 定線図

3 結果・考察

(1) 流れ藻数

月別の流れ藻視認点数を表1に示した。

3月は前年を上回ったが、平年(2010年～2019年の平均値)を下回った。主な視認海域は足摺岬から室戸岬の沖合海域及び室戸東の沿岸域で、その他の沿岸域での視認はわずかであった。

4月は前年及び平年を上回り、土佐湾中央部から西部にかけての沿岸域で幅広く流れ藻が視認された。

表1 月別の流れ藻視認点数

	2021年	前年	平年
3月	41	18	76
4月	176	52	81

(2) モジャコ付着尾数

月別の流れ藻1個当たりのモジャコ平均付着尾数を表2に示した。

3月は前年を大きく下回ったが、平年は上回った。4月は前年及び平年を下回った。4月は流れ藻が多く、モジャコの付着が分散したものと考えられる。

表2 月別のモジャコ平均付着尾数

	2021年	前年	平年
3月	27尾	103尾	19尾
4月	1尾	29尾	30尾

(3) モジャコ尾叉長組成

2016年以降の月別のモジャコ尾叉長組成を図2に示した。

3月は4.0～10.0cm以上まで幅広く、7.0cmにモードが見られた。例年は3.5～6.0cmの範囲にモードが見られることが多いが、2021年は6.0cm以下の個体の出現が少なかった。

4月は2.0～10.0cm以上まで幅広く出現し、8.5cm以上が半数を占めた。

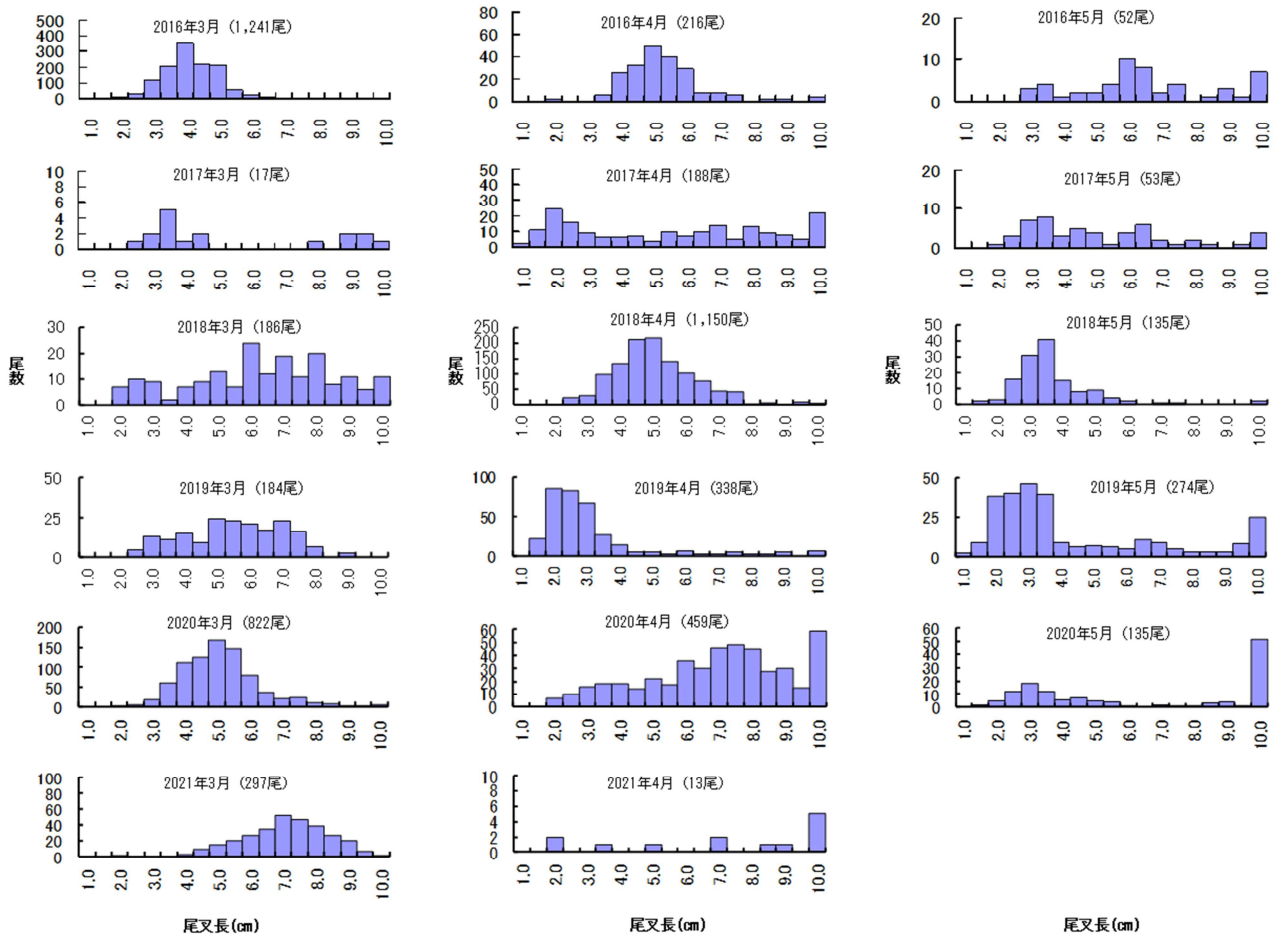


図 2 採捕したモジャコの月別尾叉長組成

(4) 流れ藻の構成種

3月にはアカモクが主体で、わずかにノコギリモクやヤツマタモクが見られた。

4月はすべてアカモクであった。